第 2 章 史跡を取り巻く環境

第 1 節 地理的環境

(1) 位置

河合町は、東経 135° 44′ 5″、北緯 34° 34′ 23″、奈良県の北西部を占める奈良盆地中央部西寄りにあって、北葛城郡の北部に位置している。東は曽我川を境として磯城郡川西町・三宅町、南は北葛城郡広陵町、西は同郡王寺町・上牧町、北は大和川を隔てて生駒郡斑鳩町・安堵町に隣接する町域 8.23 ㎢の町であり、県庁所在地である奈良市より約 15 ㎞、大阪の都心部より約 25 ㎞の位置にある。鉄道は、町域内に JR 大和路線(関西本線)、近鉄田原本線が布設され、近鉄大輪田駅、佐味田川駅、池部駅の 3 駅があり、天王寺(大阪)、奈良まで約 30～40 分で到達する。道路交通面では、町域内を県道大和高田・斑鳩線、河合・大和高田線等が通過し、西名阪自動車道、及び近郊の国道 25 号、165 号などの広域幹線道路に連絡している。

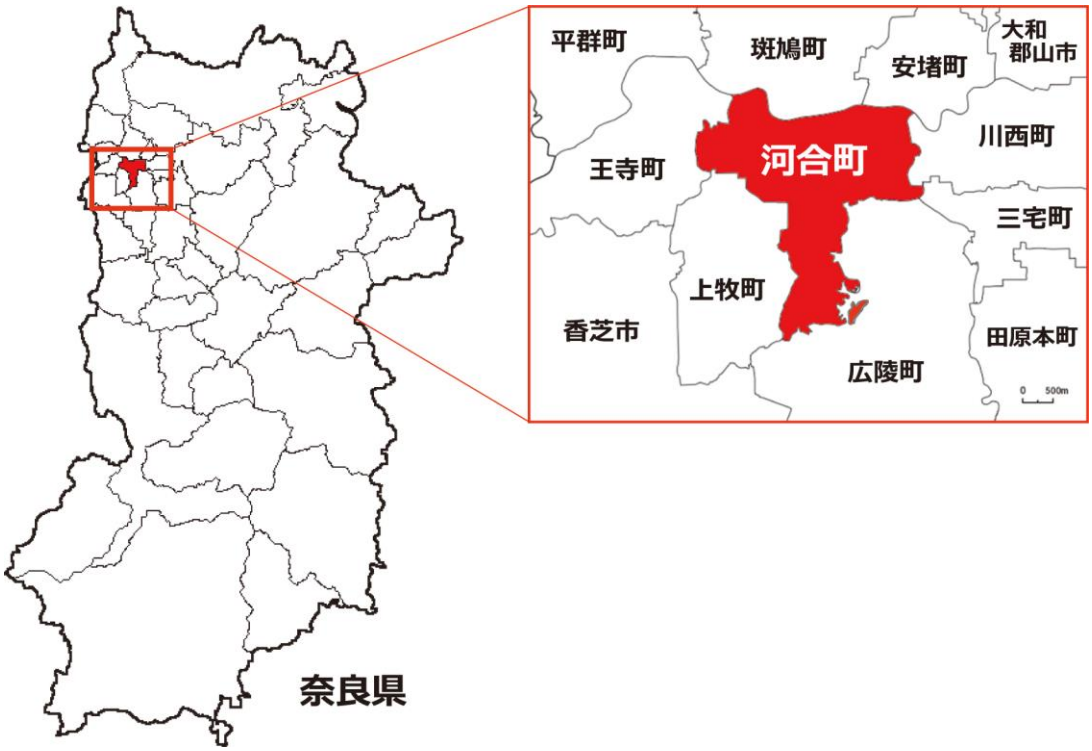


図 6 河合町の位置

（２）地形

河合町の地形は全体として奈良盆地の西部に位置する馬見丘陵に含まれ、穏やかな丘陵地とその周辺の台地及び河川沿いの低地に大別される。

① 低地

北部の大和川左岸に高度約 37ｍの氾濫平野が、北東部の曽我川には高度約 40ｍの氾濫平野が、北西部の葛下川右岸に高度約 34ｍの谷底平野が、中央部の佐味田川沿いに高度 46～37ｍで北へ緩傾斜する谷底平野が分布する。また、曽我川沿いには自然堤防や旧河道も見られる。

② 台地

北東部に高度 42～40ｍの下位台地が分布し、曽我川の氾濫平野との間に高さ 3～5ｍの崖がつづく。北部の大輪田付近に高度 68～40ｍの中位台地が分布し、大和川の氾濫平野に面して高さ 5～10ｍの崖がつづく。これらの下位・中位台地は曽我川や大和川の旧河床面を示す。

また、近鉄田原本線と広瀬台の間に高度 80～68ｍの高位台地が分布する。高位台地は開析が進み、その表面に浅い起伏が見られ、広瀬台に面して高さ 5ｍ以上の崖がつづく。

③ 丘陵地

馬見丘陵は、楯を伏せたように奈良盆地北部を南北につづく。本町は、その北部に広がり丘陵の高度は 90～60mで全体に北へ低下する。西の葛下川、東の曽我川、高田川、及び中央を北へ流れる佐味田川により丘陵の開析が進み、複雑に浅い谷が入り組む。谷と稜線との比高は 10～15mでなだらかで、北部を除き緩斜面である。特に佐味田川の支谷には棚田が耕作される緩斜面が発達する。なお、佐味田川左岸の丘陵を大規模に改変して西大和ニュータウンが開かれている。台地と丘陵地には多くの灌漑用のため池が分布しており、宅地造成により埋められたため池もある。

④大塚山古墳群の立地

史跡大塚山古墳群は、奈良盆地西部の広陵町から河合町にかけて南北に広がる標高 70～80m の洪積台地から成る丘陵地帯である馬見丘陵の北端、佐味田川右岸の丘陵先端部の東側裾部に広がる微高地に位置する。古墳群の標高は約 45～57m である。

（3）地質

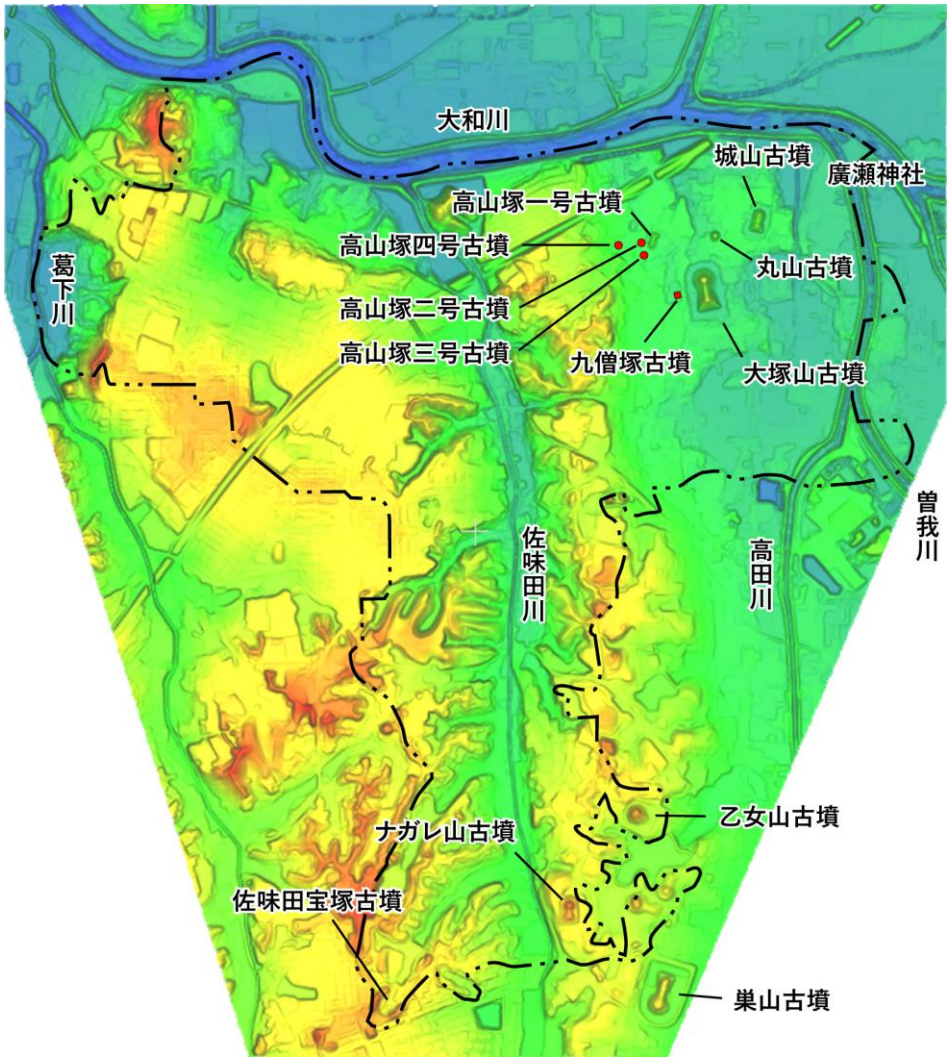


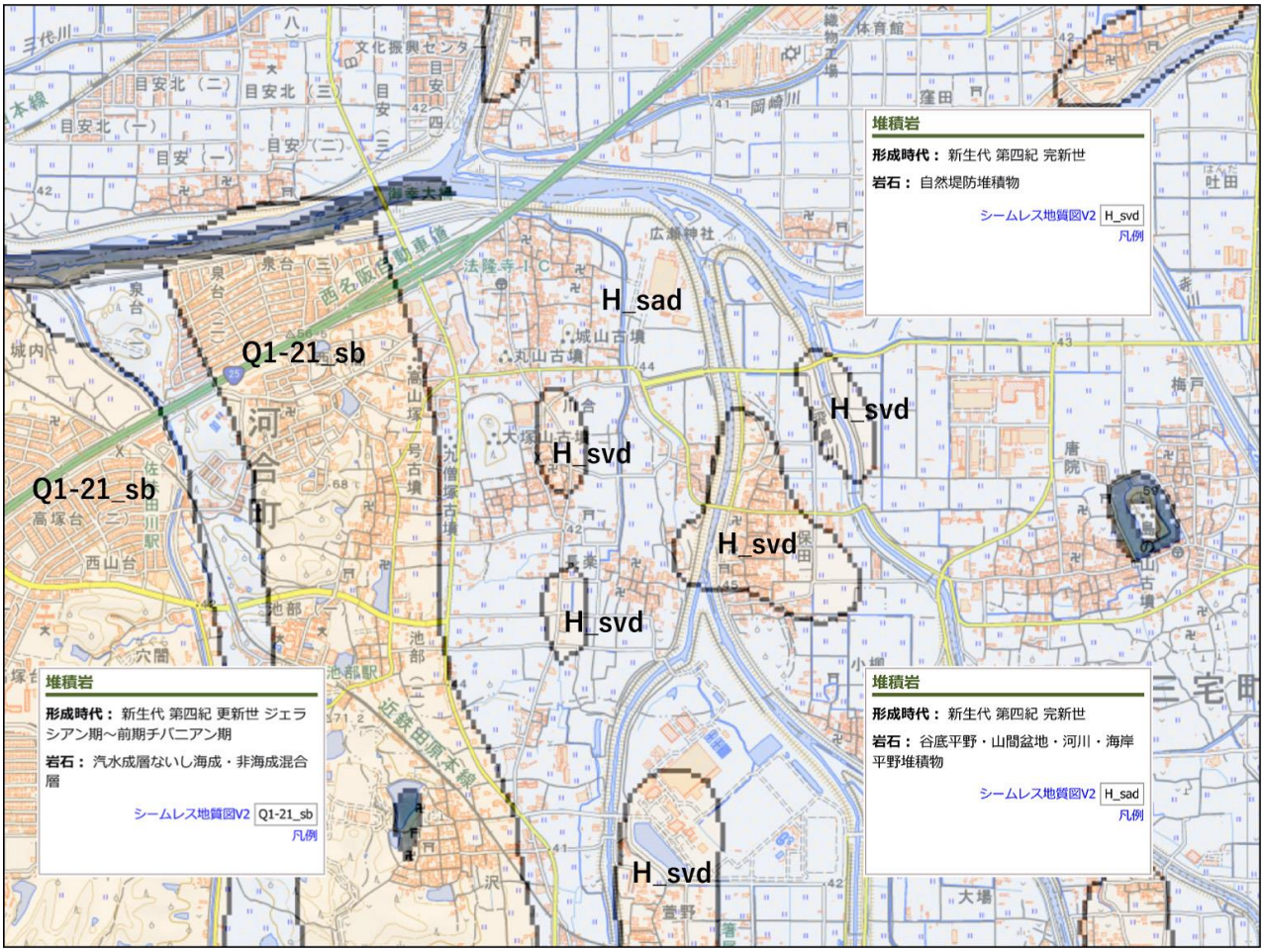
図 7 河合町域段彩図

河合町の地質は、低地を被う完新統(沖積層)、台地を被う更新統(洪積層)及び丘陵地を構成する更新統(大阪層群)や上部鮮新統(古大阪層群)に大別される。また、馬見丘陵南縁には、奈良盆地の基盤をなす領家花崗岩が分布し、本町の地下の基盤を構成する。

① 低地

低地を被う完新統(沖積層)は、主にしまりの緩い小礫混じりの砂層からなり、氾濫平野では連続の悪いシルト質粘土層を挟む。丘陵地内の枝谷には粘土質砂が不規則に堆積し、特にため池の奥には含水比の高い軟弱なシルト質粘土が堆積している。また、谷底平野の周辺の棚田がつくられた緩斜面には、丘陵斜面の崩壊や土砂流出でもたらされた軟弱な崩積土が分布する。

② 台地



大和川及び曽我川沿いの中・低位台地は、直径 数 cm～10cm の円礫を主体とするよく締まった上部更新統(洪積層)で構成される。広瀬台の上位台地は、赤褐色に風化した砂礫層の中部更新統(洪積層)で構成される。このような風化礫層は東部の佐味田川右岸丘陵の頂部にも分布するが、台地を形成していないため、地質図では丘陵地の地層に含めている。

② 丘陵地

佐味田川左岸の馬見丘陵の地質は、よく締まった砂層を主体としシルト質粘土を挟む古大阪層群(上部鮮新統)で構成される。また、佐味田川右岸丘陵地の地質は砂礫を主体とし暗褐色海成粘土層を挟む

大阪層群(下部更新統＝洪積層)で構成される。この丘陵地の砂礫層は、強く風化して赤褐色粘土層のため、大雨では土砂流出や斜面表層のすべりを生じやすい。

④ 地質構造

馬見丘陵の古大阪層群や大阪層群の地質構造は、西名阪自動車道沿いに北東－南西方向の緩い背斜(山形)褶曲を成し、丘陵地の中～東部では数度以下で東へ緩傾斜する。

第 2 節 自然的環境

(1) 気候

昭和 41 年(1966)～平成 27 年(2015)の 50 年間について、「気象庁気象統計情報」等を検討して、河合町における気象状況を取りまとめると、以下のようになる。

① 一般的な気象状況

河合町の気候は、瀬戸内気候に属するものの、奈良盆地の影響を受け、寒暑の差がやや大きい内陸性気候の特性も見られる。

ア．年間の最高気温は 39.3 度(1994 年：奈良)、月別平均気温の最低は-7.8 度(1977 年：奈良)である。

イ．12 月から 3 月にかけて最低気温が氷点下になる。

ウ．年間総雨量の平均は田原本で 1,243.9mm である。

エ．降雨については、6 月の梅雨から 9 月の台風シーズンにかけて雨の多い夏雨型である。

② 大雨の特性

奈良地方気象台(奈良)と本町の最寄りの田原本雨量観測所での大雨に関するデータは以下のとおりである。奈良気象台における過去 50 年間の平均降水量は 1,400 ㎜、日最大降雨量の平均は 86.0 ㎜、1 時間当たりの最大降雨量平均は 36.4 ㎜である。

表 1 大雨の特性

要　　素	奈良(発生年)	田原本(発生年)
年間総降雨量	1790.2 ㎜(1959 年)	1,633 ㎜(1993 年)
日最大降雨量	182.3 ㎜(1959 年)	191 ㎜(1982 年)
1 時間当たり最大降雨量	79 ㎜(2000 年)	80 ㎜(2010 年)

資料：気象庁気象統計情報

(2) 植生

河合町の中央から西部に広がるかつての馬見丘陵は「モチツツジーアカマツ群集」や「クヌギーコナラ群集」といった中部南東部から近畿中央部、四国東部太平洋側の「里地・里山」を代表する二次林が広がり、これらの中に集落が点在し、その周辺においてイチゴやブドウの果樹園が営まれるという景観が広がっていた。しかし、高度経済成長期の昭和 40 年代以降の宅地開発によりこれら里地・里山の景観は失われていった。

大塚山古墳群のかつての景観も上記のように里地・里山や集落周辺の耕作地に古墳が点在するものであったと考えられる。昭和 56 年(1981)に発行された『河合町史』には大塚山古墳の植生が記されており、墳丘は全山クヌギ、コナラなどの雑木林で、後円部にモウソウチクの竹林があるとされている。墳丘上に見られる植物として、クヌギ、コナラ、クリ、ナラガシワ、エノキ、ガマズミ、ニワウルシ、アカメガシワ、タラノキなどの落葉樹や少量のナナメノキ、シャシャンボなどの常緑樹も見られる。蔓性植物にはフジ、樹下にはネザサが全山を覆っている。ススキ、セイタカアキノキリンソウなども繁茂している。これらは馬見丘陵において主に見られる植物類であるとしている。大塚山古墳群の他の古墳についても恐らくかつてはこのような植生を成していたと思われるが、集落に近いこともあり耕作地としての開墾がなされるなど、その様相も変化していったものと思われる。現在では、大塚山古墳は『河合町史』に記された植生と変わらないが竹林の範囲が墳丘全体に広がっており、樹木類が相当駆逐されているようである。城山古墳は集落に近いこともあり開墾され耕作地となっている。丸山古墳は、樹木は見られないが全体を雑草で覆われている。高山塚一号古墳、二号古墳、三号古墳、四号古墳は既に公有地化されており、一部にサクラ等の樹木が残されているが、定期的な草刈りなど管理がなされている。

第 3 節 社会的環境

(1) 河合町の沿革

河合町の明治以降の行政沿革は、明治 22 年(1889)4 月 1 日に川合・長楽(ちょうらく)・穴闇・池部・沢・佐味田・山坊(やまのぼう)・大輪田・城内・西穴闇・寺戸・大野・薬井(くすりい)の 13 大字からなる河合村が誕生した。しかし、明治 25 年(1892)2 月 12 日には沢・大野・寺戸が箸尾村へ分離することとなった。当初河合村は広瀬郡であったが、明治 30 年(1897)4 月 1 日より北葛城郡となった。その後、昭和 40 年(1965)以降西名阪自動車道の開通と前後し、西大和ニュータウンの開発などによる急激な人口増を経て、昭和 46 年(1971)12 月 1 日より町制を施行し現在に至っている。

(2) 産業

河合町に所在する企業数(出典：RESAS、2016 年)を見ると、「卸売業・小売業」が 72 社(21.6%)と最も多く、次に「医療・福祉」が 46 社(13.8%)、「製造業」が 41 社(12.3%)と続く。ただし、「医療・福祉」及び「製造業」については全国や奈良県と比較しても比率は高く、この地域の特徴とも言える。

就業者数についても、第 3 次産業への就労者数が圧倒的に多い。直近の調査データ(出典：国勢調査)である 2015 年度の結果を見ても、全国平均が 67.2%であるのに対し河合町は 71.7%と全国を上回っている。

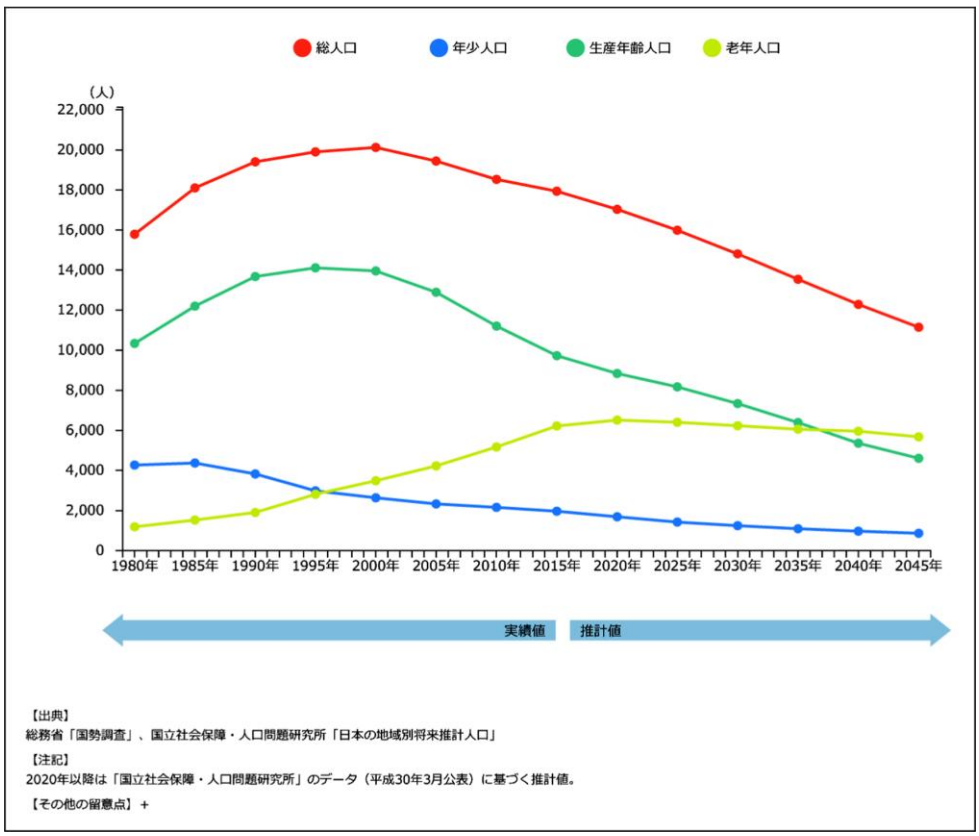


図 9　河合町の人口推移（出典：地域経済分析システム「RESAS」〔内閣官房・経済産業省〕）

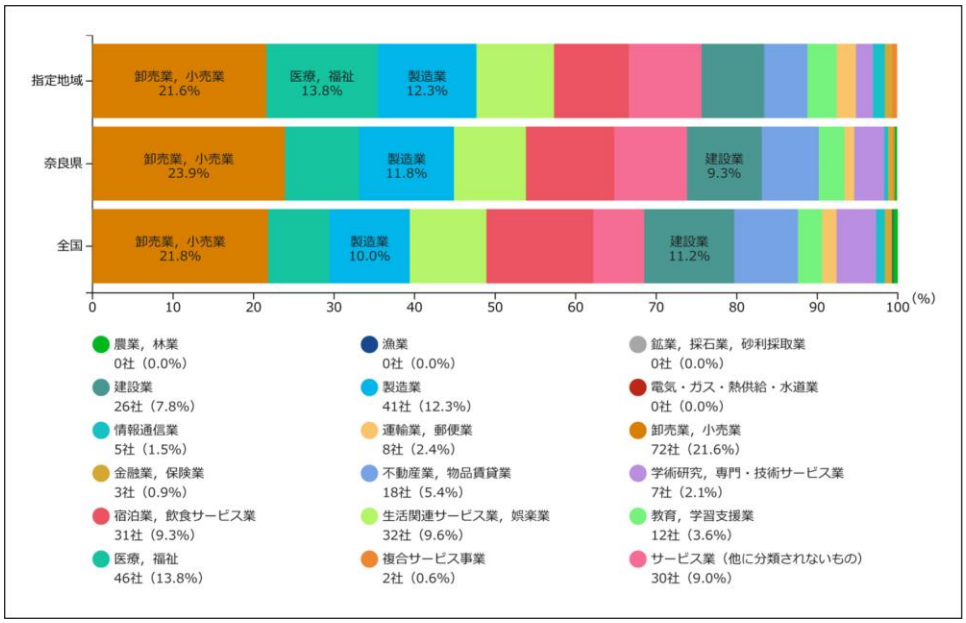


図 10　河合町の産業構造（出典：地域経済分析システム「RESAS」〔内閣官房・経済産業省〕）

「製造業」の内訳としては、「その他の製造業」が 10 社(24.4%)と最も多く、次に「食料品製造業」が 7 社(17.1%)、「プラスチック製品製造業」が 6 社(14.6%)と続く。「食料品製造業」については、川西町や広陵町、三宅町、上牧町など隣接する自治体では一桁台と下位にランクされるのに対し 2 番目に多いのも特徴的である。しかし、奈良県で最も多い「繊維工業」(19.3%)は河合町では 12.2%と 4 番である。ちなみに隣接する広陵町では 59.7%と圧倒的な割合である。

第 4 節 歴史的環境

(1) 河合町の歴史

河合町内の文化財は、国指定文化財は史跡が 4 件、県指定文化財は天然記念物が 1 件と建造物が 1 件、町指定文化財は有形文化財が 7 件（彫刻／考古資料／古文書）と無形民俗文化財が 1 件指定されている。(令和 5 年 1 月現在)

河合町内の主な歴史や遺跡については下記のとおりである。

【旧石器以前】

大正 14 年に当時の穴闇西山のブドウ畑の開墾中、シガゾウの門歯(牙)の化石が発見されている。この化石について、今から 130 万年～140 万年前のものと推定されている。出土した場所については現在の河合町高塚台で、旧河合第三小学校の南側に位置している。他にも河合町で 5 箇所、上牧町で 2 箇所からシマカシフゾウ等の大型動物化石が出土している。現在、奈良県立橿原考古学研究所附属博物館に収蔵されているシガゾウ・シカマシフゾウの化石については奈良県指定文化財(天然記念物)に指定されている。

【旧石器時代】

旧石器時代のものが見つかっている主な遺跡として馬見二ノ谷遺跡とフジ山遺跡が挙げられる。

本町山坊に位置する馬見二ノ谷遺跡は後期旧石器時代の遺跡である。2002・2003 年の発掘調査において、2 箇所の谷に周囲から流れ込んだ土砂からおよそ 6,500 点にのぼる石器類が出土している。谷に接する尾根上の平坦部に石器作りの場所があったことは間違いない。石器のほとんどは二上山周辺で採れるサヌカイトを素材として作られており、遺跡の時期としてはっきりと示すものは少ないが旧石器時代の終わりに近い約 15,000～16,000 年前の可能性が考えられる。

図 11 馬見二ノ谷遺跡現況

本町の北側、佐味田川と大和川の合流点に位置するフジ山遺跡は、丘陵地の東側山頂部付近で旧石器時代のナイフ形石器や剥片が採取されている。

【縄文時代】

大塚山古墳の東側に位置する宮堂遺跡は、平成 6(1994)年度の発掘調査により縄文時代晩期の縄文土器の破片が数点と多数の石器が出土している。その他、石器を作るための原石や石核・剥片も多量に出土しており、集落等が営まれ石器作りが行われていたと考えられる。石器については二上山付近で採れるサヌカイトで作られている。また宮堂遺跡の南側に位置する長楽遺跡では、縄文時代後期の土器や石器が出土し、北側の宮堂遺跡より前段階の遺構の存在が窺える。大塚山古墳の西側に位置する九僧塚古墳からも縄文土器・石器が出土している。

図 12 フジ山遺跡鳥瞰写真とナイフ形石器

図 13 長楽遺跡出土丸鞆

【弥生時代】

町内で弥生時代の集落跡が確認されているのは舟戸・西岡遺跡のみである。古くから弥生土器や石包丁が採取され、弥生時代の遺跡であることは認識されていたが、舟戸山山頂部で農作業中に偶然弥生土器が多数出土したことや、その後の発掘調査で弥生時代後期の住居跡が検出されたことから、高地性集落が築かれていたと考えられる。東側平坦部では弥生時代から奈良時代の遺物が出土し、掘立柱痕が検出されている。そのことから弥生時代以降、連綿と集落が営まれていることがわかる。

【古墳時代】

本町とその南側に位置する広陵町・大和高田市・上牧町・香芝市にまたがるように馬見丘陵があり、そこには多くの古墳が造られた。その丘陵の名前から馬見古墳群と呼ばれ、本町の古墳はその中の中央群と北群に位置する。大塚山古墳群については北群の範囲に入る。

図 14 ナガレ山古墳全景

馬見古墳群中央群は、古墳時代前期後半の別所下古墳・ナガレ山北 3 号墳の築造から始まり、ナガレ山古墳・乙女山古墳等の古墳が大小合わせて約 30 基以上確認されている。また中央群から外れる位置にあるが、本町南端の丘陵地に佐味田宝塚古墳があり、そこから出土した家屋文鏡は、古墳時代の建造物研究の基礎資料として取り上げられている。

北群は馬見古墳群中央群の大型前方後円墳の位置から離れた本町川合付近に築かれている。古墳時代中期後半の大塚山古墳が築かれ、中良塚古墳、城山古墳と築造が続く。立地が奈良盆地の低平地に

あり、また大和川が合流する地点に位置することから、被葬者は大和川の水運を治めていた人物と考えられる。またこのような立地条件から馬見古墳群とは別系譜とみている。大塚山古墳東側の微高地に位置する宮堂遺跡では、大塚山古墳の築造と同時期の竪穴住居跡が確認されており、遺物についても土師器等が出土している。大塚山古墳や城山古墳が造られた時期に、これらの古墳を造った人々が生活していた集落があったと考えられる。

他に町内では、古墳時代後期～終末期にかけて池部三ツ池古墳群や佐味田石塚古墳群の築造がみられる。

図 15　乙女山古墳全景

【飛鳥時代～古代】

大塚山古墳群の東側に位置する宮堂遺跡には、飛鳥時代の集落跡があったと考えられるほか、大塚山古墳群の西側の穴闇には長林寺が創建される。聖徳太子による創建と伝えられており、昭和62(1987)年と昭和 63(1988)年の発掘調査により、金堂跡基壇の痕跡などから斑鳩の法起寺と同じ伽藍配置であったことが分かっている。また、出土遺物は飛鳥時代～奈良時代にかけてのものを中心に多量の瓦類が出土している。その中には『長倉寺瓦』と書かれた奈良時代の瓦が出土しており、古代では長倉寺と呼ばれていたとされる。

また、長林寺跡より南の位置に池部三ツ池古墳群があり、6 世紀後半から 7 世紀前半にかけて形成されていることから、この古墳群の被葬者が長林寺の創建に深く関わっているものと思われる。

図 16　長林寺跡出土文字瓦

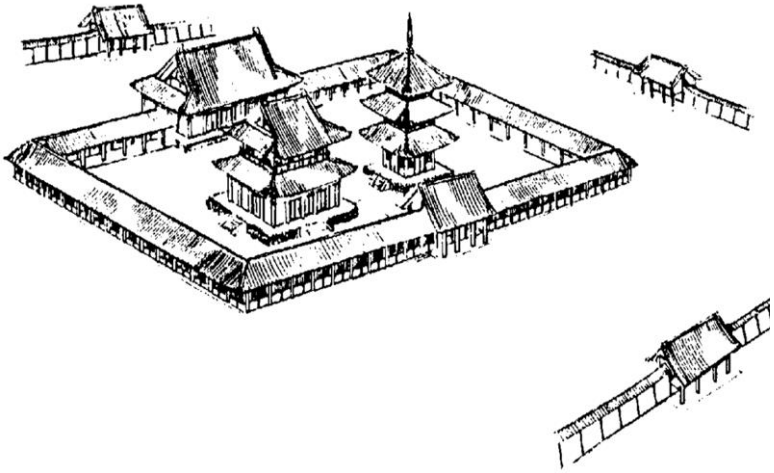


図 17　長淋寺跡伽藍想定スケッチ

大塚山古墳群の北東側に位置する廣瀬神社は、実際の創建年代は不明であるが、社伝では崇神天皇の時代に創建されたと記されている。また史料では『日本書紀』天武天皇 13(684)年に天武天皇が神社に行幸されたと記されている。

河合町の西側に位置する薬井瀧ノ北遺跡では、長屋王邸所用の瓦を焼成した瓦窯跡が発掘調査により確認されている。この薬井地域は長屋王家の『片岡御薗』の範囲内にあたるとされ、ここから蔬菜(そさい)類(るい)を進上していたと長屋王邸跡出土の木簡に記されている。

宮堂遺跡の南側に位置する長楽遺跡には、平安時代以降の文献に現れる「小東荘(こひがしのしょう)」といわれる荘園があったとされ、実際に発掘調査で平安時代の帯の飾りである石帯の丸鞆が出土している。

【中世】

大塚山古墳東側の居場垣内遺跡や城山古墳の北側に位置する市場垣内遺跡にて、環濠を持った屋敷が形成されていたとみており、実際に発掘調査によってその形跡を確認している。また大塚山古墳や城山古墳の墳丘を、河合城・川合城の砦として用いられていたとも伝えられている。

図 18 市場垣内遺跡出土遺構

【近世】

江戸時代、本町の地域には薬井村・大輪田村・城内村・穴闇村・川合村・長楽村・池部村・山ノ坊村・佐味田村の 9 ヶ村あり、大半は郡山藩の領地であった。また、大塚山古墳より北の大和川沿岸に、舟運の船着き場・荷上場として「川合浜」が整備される。船着き場の位置が異なる可能性はあるが、川合浜の前身となる川港があったといわれている。

【近現代】

明治 20 年代までは大和川の舟運を利しての農業が一層盛んになり、イチゴ、スイカ、サツマイモ、ブドウ等の商品作物が積極的に導入され、県下でも有数の農業地域として推移していく。また、大正 7 年に大和鉄道(現在の近鉄田原本線)が開通して以降、徐々に本町の市街化が進展していった。昭和 40 年頃から西名阪自動車道の開通と前後して西大和ニュータウンなどの住宅団地の建設が進むにつれ、農業の生産活動は低迷し、近年、住宅を主体とした町となっている。

明治以降の行政沿革は、明治 22(1889) 年に 13 大字からなる河合村が誕生し、明治 24(1891)年には沢・大野・寺戸が広陵町へ分離した。その後、昭和 40 (1965)年以降の急激な人口増を経て、昭和 46 (1971)年 12 月 1 日より町政を施行し現在に至っている。

■ 河合町の指定文化財一覧

国指定文化財

区　分	名　称	所在地	指定年月日
史　跡	乙女山古墳	佐味田字乙女	昭和 31 年 11 月 7 日
史　跡	大塚山古墳群 大塚山古墳 城山古墳 丸山古墳 九僧塚古墳 高山塚一号古墳(中良塚古墳) 高山塚二号古墳(高山 2 号墳) 高山塚三号古墳(高山 3 号墳) 高山塚四号古墳(高山 4 号墳)	川合字大塚山・池田 川合字城山・山ノ間 川合字丸山 穴闇字松ヶ下 穴闇字中良塚 穴闇字中良塚 穴闇字畑ノ前 穴闇字畑ノ前	昭和 31 年 12 月 28 日
史　跡	ナガレ山古墳	佐味田字別所下・ナガレ	昭和 51 年 12 月 27 日
史　跡	佐味田宝塚古墳	佐味田字加明・貝吹	昭和 62 年 5 月 12 日

県指定文化財

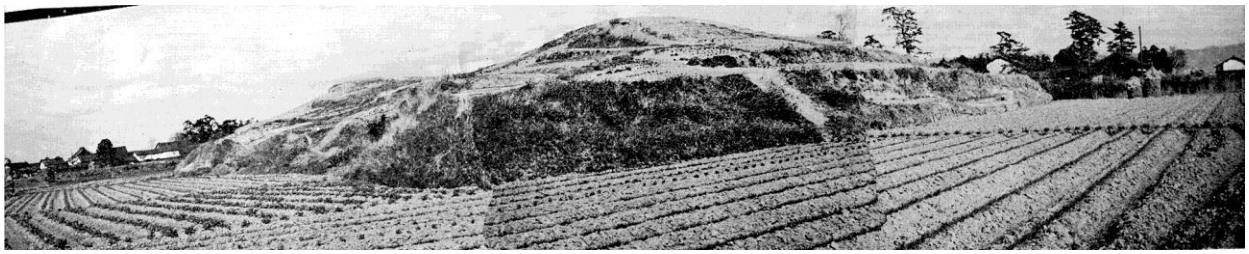
区　分	名　称	所在地	指定年月日
天然記念物	馬見丘陵出土シガゾウ化石 馬見丘陵出土シカマシフゾウ化石	穴闇字西山(県立橿原考古学研究所付属博物館保管)	昭和 61 年 3 月 18 日
建造物	廣瀬神社本殿〔正徳元(1711)年〕	川合字久保田	昭和 63 年 3 月 22 日

町指定文化財

区　分	名　称	所在地	指定年月日
有形(彫刻)	地蔵菩薩立像〔平安時代前期〕	川合字神宮寺(定林寺蔵)	平成 9 年 3 月 26 日
有形(彫刻)	十一面観音菩薩立像〔平安時代中期〕	川合字神宮寺(定林寺蔵)	平成 9 年 3 月 26 日
有形(彫刻)	阿弥陀如来坐像〔平安時代後期〕	川合字神宮寺(定林寺蔵)	平成 9 年 3 月 26 日
有形(彫刻)	不動明王立像〔室町時代後期〕	川合字神宮寺(定林寺蔵)	平成 9 年 3 月 26 日
有形(彫刻)	木造聖徳太子立像	穴闇	令和 4 年 11 月 22 日
有形(考古)	長林寺跡出土瓦	河合町中央公民館	令和 4 年 2 月 10 日

有形(古文書)	筒井順政感状	佐味田(個人蔵)	令和 4 年 11 月 22 日
無形民俗	廣瀬神社の砂かけ祭(御田植祭)	川合	平成 21 年 12 月 11 日

【古写真】大塚山古墳 全景



【古写真】城山古墳 全景

【古写真】高山塚一号古墳 全景

【古写真】丸山古墳 全景

【古写真】九僧塚古墳 全景

図 19 『奈良県史跡名勝天然記念物調査抄報 第十二輯(昭和 34 年 3 月)』図版第十九～二一より